

長谷川慶太郎の霊言・霊界からの未来予言 (2019年11月28日収録)担当:石田昭 2020年1月26日

- 1 解説: 米国が日本の銀行に BIS 規制、経済大暴落、中国経済を持ち上げた。政府とマスコミの無知、米国の意図。バブル潰しに反対したのは大川、長谷川、谷沢、渡部。次期総理は金丸信というような大ハズレもあった。関東平野の潜在力を見抜いていた。湾岸戦争の開始日の朝、開戦を言い当てた。日本海の持つ意味二十個師団と指摘。兵法にも長ける。
- 2 霊言: Kissinger 守護霊と縁台将棋のような感じで会話。彼は中国を大国にした責任がある。日本がリーダーになるべきだった(第2の敗戦)。日本のデフレは止まらないが、それでも経済発展の方法はある(先生は公案として受け取る)。中国のバブル崩壊は止まらない。中国共産党の威信は経済発展だけ、もう終わる。さすれば、人民の内乱状態、内部崩壊。組織的な隠蔽や数字のごまかしを情報操作で抑えているが、いずれ破れ、情報公開を迫る。
- 3 香港区議会選は大勝利だった。これが大陸内部にもやがて伝わる、一帯一路は全部崩壊、昔話になる。綾織氏現役中に中国大崩壊のニュースがリパティエーに書ける、号外も出せる。
- 4 香港革命が中国を崩壊し、北朝鮮の崩壊へと繋がる。「豊かさの平等」は夢物語、毛沢東・大躍進・文化大革命・など失敗の連続。鄧小平の経済だけ資本主義路線は無理、もう崩れる。
- 5 トランプ氏は経済的に国力を上げ、軍事的にも米国を強くしている。経済的に独立してたら戦争可能。しかし、中国はもう戦争できない。米国にはトランポノミクスが救世主。
- 6 ローマ法王はバカだとバレた。彼の思想は民主主義を認めていない。結果的に共産主義になる。トランプの方針が理解できていない、彼の意見を聞いてたら日本は占領される。本当は北京・アメリカに行って話すべきだが、行けないので、何でも語れる弱い日本に着て愚痴を言って帰っただけ。(ローマ法王守護霊: 殺されるなら、信仰捨ててもいい。今世の命が大切)
- 7 帰還後に頭が冴えた理由: 経済・政治・軍事の展望台があり、遠眼鏡のように未来が判る。これからの30年は大川先生の時代だ。将来的には圧勝、8割の支持が集まること確信した。
- 8 皇室の終わりを感じる。皇室のやる一挙手一投足が危険な時代になった。神は「隠身」から始まることを理解できてない。見せてしまえば厳かさがなくなり、伝統は守れない。
- 9 今の形の皇室は無い、京都御所に移し、皇居を再開発せよ。周辺の高さ規制も撤廃し、大きな富を生む(HSからは言えないが)。将来信仰心が変質するかも、時々呼んでくれ。
- 10 ソニーやシャープのカメラが人権弾圧に利用されている。この無頓着さは今後許されない社会になる。経済に倫理が求められる。(ソクラテス: 神理経済学、神の目から見た経済価値) 第二次産業レベルの仕事はまだある。アフリカの砂漠の緑化、インドのトイレ普及など。
- 11 政府のクリーンエネルギーは孫正義に騙され、補助金巻き上げ。倒産する、ほら吹き。
- 12 原発は絶対に残せ。エネルギーの自給率高めるよ。(トランポノミクスの疑問点、シェール)
- 13 未来戦争は宇宙戦になる。電磁波パルス防衛が必要。友達宇宙人から教えてもらえ。
- 14 トランプはEUと中国を弱め、日英米で組む。大英帝国旧植民地を中心の発展を狙う。
- 15 今後は、英語と日本語が世界の主要言語。防衛の観点からもアジアに日本語教育が必要。
- 16 ウイグル弾圧などでアメリカの方向転換が明確になった。共産主義の良い面も持っている日本が世界のバランス役となり、ローマ法王に変わって橋をかけるのがHSの仕事。
- 17 過去世では「李斯」(始皇帝の廷臣、焚書坑儒、度量衡制度) 黒田官兵衛、桐野利明。
- 18 安倍政権の終わりは近い。桜の会は大規模な買収だ、結構こたえる。HSは自民党安倍派のスピンアウト(飛び出し、独立組) 完全には批判できず、策だけ授けてる。でも、あの世にいるうちに勝たせてやるよ。(そのうち地上に? トランプ退任後シェール短命、日本の時代)